

1. 科目名 (単位数)	児童学研究基礎論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP5101				
2. 授業担当教員	岡野 雅子、上田 征三						
4. 授業形態	オムニバス形式による	5. 開講学期	春期				
6. 履修条件・他科目との関係	大学院科目の最初に履修することが望ましい	履修形態 (通信教育)	R				
7. 講義概要	<p>「全体としての子ども」(a child as a whole)の理念のもとで、多分に学際的な性格をもつ児童学は、子どもに関する総合的な学問として発展してきた。本科目では、保育、教育、心理、保健・医療、福祉の諸領域を包括する複合科学としての児童学について理解し、知識を深める。児童学専攻科目を履修し児童学研究に取り組むに当たり、まず、児童学についておよび研究方法の基礎について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童学 (child studies) について理解する。 ・児童学は子どもの視点で考える学問であることを理解する。 ・児童学は学際的であり、既存の領域に縛られずに多様な知を取り入れることを理解する。 ・児童学にはいろいろなアプローチがあり、研究方法はいろいろあることを理解する。 ・研究論文の構成および進め方について理解する。 						
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 児童学について説明できるようになる。 2) 児童学領域の様々な研究方法について説明できるようになる。 3) 自己課題に必要な資料検索の方法について習得する。 4) 研究論文として構成すべき事項について説明できるようになる。 5) 自己課題について児童学研究としての計画を立てることができるようになる。 6) 研究論文の進め方について習得する。 						
9. レポート課題	<p>レポート課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 児童学とは何かについて述べなさい。(テーマ4終了時に提出する。) 2) 科学論文としての児童学研究論文について、自己の課題(仮のもので可)を設定してその論文の構成を書いて説明しなさい。(テーマ7終了時に提出する。) 3) 子どもに関する福祉についての課題を1つ選び、その課題の研究方法について述べなさい。(テーマ15終了時に提出する。) <p>[各レポートはA4判、横書き、明朝体10.5ポイント、2ページ(1ページあたり40字×39行)にまとめて提出すること。]</p>						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。 						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学際科学である児童学について理解し説明すること、および、研究に取り組むにあたり必要な手順について習得することが求められている。 積極的な受講態度、レポート課題等で総合的に評価する。</p> <p>○評定の方法 (通学過程)</p> <table border="0"> <tr> <td>レポート</td> <td>70 %</td> </tr> <tr> <td>受講態度、発表</td> <td>30 %</td> </tr> </table>			レポート	70 %	受講態度、発表	30 %
レポート	70 %						
受講態度、発表	30 %						
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から学童期の子どもの発達には目を見張るものがあります。その内実について、折に触れて実際に子どもを観察して体験して下さい。 ・日常生活場面で子どもの行動特徴(周囲への関心の表し方等)を捉え、子どもの立場から環境などについて考えてみて下さい。 ・子どもおよび子どもを取り巻く人・モノ・環境などをテーマとしたさまざまな研究論文を読むように心がけて、視野を広げて下さい。 						
13. オフィスアワー	授業中に周知する。						
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】							
1. テーマ	(岡野 雅子) 児童学は子どもに関する総合的な学問である						
【学習の目標】	児童学とは何かについて理解する。						
【学習の内容】	子どもに関する総合的な学問であり学際科学であることから、既存の領域に縛られずに広く多様な知を取り入れることを学習する。						
【キーワード】	児童学 総合的学問 学際科学 多様な知						
【学習の課題】	児童学とは何かについて説明せよ。						
【参考文献】	浜田寿美男『子ども学序説』岩波書店、2009。 津守眞『子ども学のはじまり』フレーベル館、1979。 津守眞『子どもの世界をどうみるか』日本放送出版協会、1987。 西隆太朗『子どもと出会う保育学—思想と実践の融合をめざして—』ミネルヴァ書房、2018。						

2. テーマ	(岡野 雅子) 児童学の意義
<p>【学習の目標】「全体としての子ども」の視点の重要性について理解する。</p> <p>【学習の内容】「実証的研究の方法は、量的方法と質的方法があることを学習する。」</p> <p>【キーワード】「全体としての子ども」</p> <p>【学習の課題】児童学の意義について述べよ。</p> <p>【参考文献】 浜田寿美男『子ども学序説』岩波書店、2009。 津守眞『子ども学のはじまり』フレーベル館、1979。 津守眞『子どもの世界をどうみるか』日本放送出版協会、1987。 西隆太朗『子どもと出会う保育学—思想と実践の融合をめざして—』ミネルヴァ書房、2018。</p>	
3. テーマ	(岡野 雅子) 児童学の様々な研究方法
<p>【学習の目標】学際科学である児童学の研究方法には様々なものがあることを理解する。</p> <p>【学習の内容】実証的研究の方法は、量的方法と質的方法があることを学習する。</p> <p>【キーワード】量的研究 質的研究 統計分析 質問紙調査 観察 面接 データ</p> <p>【学習の課題】量的研究、質的研究の具体的方法について、それぞれの特徴について述べよ。</p> <p>【参考文献】 大野木裕明・中沢潤『心理学マニュアル 研究法レッスン』北大路書房、2002。</p> <p>【学習する上での留意点】科学研究としての客観性や再現性について理解して、今後レポートや研究論文を書く際の文章には気を付けるようにする。</p>	
4. テーマ	(岡野 雅子) 研究課題の決め方
<p>【学習の目標】自らの研究課題をどのように決めるかについて理解する。</p> <p>【学習の内容】(1) 自分の興味・関心について自らに問う。 (2) 何を知りたいかを明確にする。 (3) 研究したい課題(研究目的)を質問(research question)の形にしてみる。 (4) 具体的な研究課題へとさらに絞っていく。</p> <p>【キーワード】自らの興味・関心 何を知りたいか 研究目的</p> <p>【学習の課題】何を知りたいのか、何を明らかにしたいのか、箇条書きにして挙げてみる。</p> <p>【参考文献】 花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。 大野木裕明・中沢潤『心理学マニュアル 研究法レッスン』北大路書房、2002。</p> <p>【学習する上での留意点】自分の興味・関心について、自分自身にしっかりと問う。</p>	
5. テーマ	(岡野 雅子) 資料検索の方法
<p>【学習の目標】研究課題についての情報収集の方法を理解する。</p> <p>【学習の内容】研究課題およびその周辺のことについて、既にどのような知見があるかを知るための文献検索の方法を学習する。</p> <p>【キーワード】文献検索 先行研究 専門誌</p> <p>【学習の課題】CiNii (NII 学術情報ナビゲータ)による検索をしてみる。</p> <p>【参考文献】 花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。 市古みどり編著『資料検索入門—レポート・論文を書くために—』慶応義塾大学出版会、2014。</p> <p>【学習する上での留意点】大学の図書館を有効に活用するとよい。</p>	
6. テーマ	(岡野 雅子) 研究論文の構成
<p>【学習の目標】科学論文としての決まりごとを習得する。</p> <p>【学習の内容】(1) 科学論文は「目的」「方法」「結果」「考察」から成っている(若干の発展形の場合もある)。 (2) 客観性、再現性があること、研究倫理に反していないこと。</p> <p>【キーワード】論文構成 客観性 研究倫理</p> <p>【学習の課題】自分の研究課題について論文の骨組み(構成要素)を書いてみる。</p> <p>【参考文献】 花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。 日本保育学会倫理綱領ガイドブック編集委員会『保育学研究倫理ガイドブック』フレーベル館、2010。</p> <p>【学習する上での留意点】複数の先行研究を見て、研究課題および研究方法による論文の構成や流れ方を比べてみる。</p>	
7. テーマ	(岡野 雅子) 課題研究の進め方
<p>【学習の目標】研究課題について論文として発展させるための進め方について理解する。</p> <p>【学習の内容】論文作成のための手順について学習する。</p> <p>【キーワード】課題研究 仮説 先行研究 研究方法 データの整理・集計 データの分析 考察</p> <p>【学習の課題】研究スケジュールを作成する。</p> <p>【参考文献】 花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル新版』有斐閣、2014。 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで—』日本放送出版協会、2012。</p>	
8. テーマ	(岡野 雅子) 家族および社会の中の児童
<p>【学習の目標】家族や社会の中の児童という視点から今日の児童を分析するための基礎知識を習得する。</p> <p>【学習の内容】国や地方自治体による近年のさまざまな少子化対策について基礎知識として習得し、問題点を把握した上で、その解決方法について考える。</p> <p>【キーワード】少子化 少子化対策 子育て支援 待機児童</p> <p>【学習の課題】自分の思い込みや先入観に拠る「あたりまえ」と、「実証された事実」をしっかりと区別して理解する。</p> <p>【参考文献】 内閣府『平成30年版 少子化社会対策白書』2018。 古市憲寿『保育園義務教育化』小学館、2015。 普光院亜紀『保育園は誰のもの——子どもの権利から考える——』岩波書店、2018。</p>	

9 . テーマ	(岡野 雅子) 児童学のための日本幼児教育史
【学習の目標】	日本の児童史・教育史の概要を把握し、子ども観および幼児教育方法がどのように変遷してきたのかを理解する。
【学習の内容】	古代から戦後までの日本児童史・教育史をたどり、現在の日本における子ども観や保育のあり方を相対化する。
【キーワード】	子ども観 呼び名 保護 育児 近代化 幼稚園の誕生 倉橋惣三
【学習の課題】	現在の子ども観は歴史的・社会的な構築物であることを踏まえた議論ができるようになる。
【参考文献】	倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館、2007。 森山茂樹・中江和恵『日本子ども史』平凡社、2002。 柴田純『日本幼児史——子どもへのまなざし——』吉川弘文館、2013。
【学習する上での留意点】	あくまでも現在の保育に視点を置き、児童史・教育史を学習すること。
10 . テーマ	(上田 征三) 児童家庭福祉におけるソーシャルワーク
【学習の目標】	児童家庭福祉におけるソーシャルワークの役割を説明することができる。
【学習の内容】	児童家庭福祉と自立支援におけるソーシャルワークについて学ぶ。
【キーワード】	ソーシャルワーク ソーシャルワークのプロセス ソーシャルワークの視点
【学習の課題】	児童相談所の基本的機能について述べよ。
【参考文献】	上田征三・岡本明博「社会的養護と自立支援における ソーシャルワーク」(第11章)『子ども支援の基礎から学ぶ社会的養護Ⅰ』大学図書出版、2019。
【学習する上での留意点】	児童家庭福祉における自立に向けた支援内容について理解しておくこと。
11 . テーマ	(上田 征三) 実践現場における児童の権利擁護
【学習の目標】	児童の権利について説明することができる。
【学習の内容】	児童の権利に関する条約の受動的権利・能動的権利について理解し実践現場の課題について学ぶ。
【キーワード】	児童の権利に関する条約、児童福祉法、能動的権利
【学習の課題】	児童の権利に関する条約について述べよ。
【参考文献】	上田征三・岡本明博「児童の権利擁護」(第4章)『子ども支援の基礎から学ぶ 社会的養護Ⅰ』大学図書出版、2019。
【学習する上での留意点】	児童の権利に関する条約について理解を深めること。
12 . テーマ	(上田 征三) インクルーシブ保育(教育)に関する現状と課題
【学習の目標】	インクルージョンに関する国際的到達点と日本における現状や課題を説明できる。
【学習の内容】	インクルージョンに関する理念を理解し海外や日本における現状、課題等について対象者ごとに具体的に学ぶ。
【キーワード】	インクルージョン サラマンカ宣言 統合保育 病児保育 障害者の権利条約 合理的配慮
【学習の課題】	インクルーシブ保育(教育)に関する現状と課題について整理しなさい。
【参考文献】	『発達障害者白書 2023年版』明石書店、2022。 小林保子・立松映子『保育者のための障害児療育・理論と実践をつなぐ』(改訂2版)学術出版会、2017。
【学習する上での留意点】	インクルーシブ保育(教育)は、「同世代の子たちをなるべく分け隔てないことを大切にする」マインドが重要であるが、「個に応じた保育(教育)」の保障として並行通園などは大変重要である。
13 . テーマ	(上田 征三) 保育における「気になる子」の研究手法
【学習の目標】	発達の課題か、障害や病気か「何が気になるか」を明確に解説できるようになる。
【学習の内容】	現場の保育者はどのような視点で「気になる」としているのか、ある調査研究から明らかにする。
【キーワード】	保育者 気になる子 発達の課題 量的調査 質的調査
【学習の課題】	乳幼児期の発達とその課題などから「何が気になるか」について整理し論述せよ。
【参考文献】	上田征三他「保育所における『気になる子ども』の実態調査と支援の課題—福山市内保育所の実態調査から—」経営福祉学研究 第9号、2004。
【学習する上での留意点】	「気になる子」に関する先行研究をまとめることが重要である。
14 . テーマ	(上田 征三) 児童の理解を踏まえた社会的養護における事例研究
【学習の目標】	児童環境の変化と児童虐待などの課題を理解する。
【学習の内容】	社会の変化と児童虐待の現状を理解し、その解決策について事例から考察する。
【キーワード】	児童虐待 社会的養護 少子高齢化
【学習の課題】	児童虐待の現状についてデータを整理分析しその防止について考察する。
【参考文献】	上田征三『実践研究や事例から学ぶ社会的養護Ⅱ』大学図書出版、2018。
【学習する上での留意点】	最新のデータを入手すると同時に多くの事例研究から虐待防止の視点を学ぶ。
15 . テーマ	(上田 征三) 発達障害の児童に関する事例研究
【学習の目標】	行動障害がある子への家族を含めた支援について支援計画を立てる。
【学習の内容】	自閉症スペクトラム障害における行動障害の背景と家族を含めた支援のあり方を学ぶ。
【キーワード】	ASD 家庭内暴力 共依存 児童発達支援計画
【学習の課題】	子どもの側にたったアセスメントとその重要性について理解する。
【参考文献】	上田征三『実践研究や事例から学ぶ社会的養護Ⅱ』大学図書出版、2018。
【学習する上での留意点】	本人の行動障害は障害だけでなく家族を中心とした環境を理解することも重要である。